

和田修一氏の旧蔵資料を大学文書館で受贈

11月1日（金）及び5日（火）、大学文書館では、和田正博氏から、ご尊父の和田修一氏の旧蔵資料3点（アルバム1冊、戦時中に書かれた手紙と封筒各1点）をご寄贈いただきました。

和田修一氏は、予科工類（1940年4月入学、1942年9月修了）と工学部鉱山工学科（1942年10月進学、1945年9月卒業）で学生生活を送られました。

受贈したアルバムは、予科工類修了を記念したもので、予科教員の肖像写真や、予科生徒を大学構内（教室、実験室、農場、中央ローン、恵迪寮等）や市街地（中島公園、富貴堂、喫茶店等）で撮影した写真が貼付されていま

す。その中には、軍事教練、援農、東条英機首相の来学、防火訓練を写したのももあり、戦時色が強まっていく様子を感じ取ることができます。

手紙は、工学部採鉱学研究室の佐山総平教授が、三菱美唄・三井砂川の炭鉱や帝国砂白金（鷹泊）の鉱山で勤労する学生達に宛てた、1月17日付のものです。勤労先の施設長に対して作業内容の変更と休息を学生に与えるよう進言したこと、近日中に現地訪問を見込んでいること、今後の勤労先に関する意向聴取など、いくつかの連絡事項のほか、ユーモアを交えた労いの言葉と、「世間は努力奮闘のルツボであ

り、之れを生き抜くのが人生の楽しみである事は、忘れてはならぬ」といった激励の言葉を、佐山教授は学生達にむけて方眼紙の両面いっぱい綴っています。

封筒は、和田修一氏（工学部応用地質学研究室）が、帝国砂白金の雨竜鉱業所（鷹泊）にいる学生達に宛てた、1945年2月1日付のものです。

今後、ご寄贈いただいた資料は、大学文書館において大切に保管し、展示や閲覧利用等を通じて紹介してまいります。

（大学文書館）



恵迪寮にて



中央ローンにて



富貴堂にて



農場でのアルバイト



消防訓練



戦時中の手紙・封筒